

福祉サービスや活動について

(高齢者支援に関すること)

○高齢者支援を充実する

- ・高齢者が安心して楽しく暮らせる環境をつくってほしい
- ・在宅介護、在宅医療に積極的に取り組んでほしい
- ・緊急時に市に連絡できる装置を、ひとり暮らし高齢者の家庭に設置してほしい
- ・北欧では、高齢者が配食や会食を選べるようになっており、日本もそのようになってほしい
- ・本人は要介護で認知症もあって小規模多機能施設を利用しており、できるだけ穏やかに過ごせるように祈っている
- ・子育て支援とくらべて高齢者福祉は不安で、介護保険料を払ってもどれくらい助けてもらえるかわからない
- ・年金の減額など、先は真っ暗なので、高齢者が住みよい福祉を願う
- ・他市では高齢者に交通機関の無料バスがあるので、何か特典を考えてほしい
- ・真面目に働いて定年退職した人が、馬鹿を見ないようにしてほしい

○介護施設を充実する

- ・待機している人や金銭的に困っている人が施設に入れるようにしてほしい
- ・将来必要になったときに公の施設に入所できるか不安なので、充実してほしい
- ・安く利用できる市の介護施設を増やしてほしい
- ・公的年金のみの人が心配せずに入れる老人ホームを、もっとつくってほしい
- ・施設に入っていて金銭的な負担が大きいので、公的な施設ができるとうい
- ・特養と有料老人ホームの中間的な施設があれば、中間所得者も安心できる

○要介護認定を充実する

- ・父の介護で事業所の人に親切にしてもらっているが、他市とくらべて認定が低いと思う
- ・介護認定を受けるたびに要介護度が変わって振り回されており、福祉が遅れていると感じる
- ・要介護認定にバラツキがあったり不適切なサービス提供をしている事業所があることに、疑問を感じている
- ・介護保険料が高いので、必要性が低いサービスを利用している人や事業者をなんとかしてほしい
- ・普段は元気な人が介護サービスを受けており、もっと必要な人がいるのではないかと思う
- ・介護サービスを利用する際に、医師の意見書に大きな負担がかかる

○介護の負担を軽減する

- ・在宅で介護をしており、自由時間がなく精神的・体力的に苦しい
- ・デイサービスに行きたがらない老人の介護に困っている
- ・介護者が職を失う覚悟をしないと十分な介護ができない状況であることを、市、府、国は認識すべきである

○健康づくりや介護予防を推進する

- ・認知症予防のために、人との会話が楽しめる場所を提供してほしい
- ・義母の介護に追われており、老老介護を防ぐには健康長寿社会をめざすしか方策がない

○生活設計を支援する

- ・自分で終活設計ができるような研修をしてほしい

(障害者支援に関すること)

○障害福祉サービス等を充実する

- ・障害者・障害児が安心して独り立ちできるシステムを確立してほしい
- ・当事者の話を直接聞いて施設や事業所を増やすなど、福祉に力を入れてほしい
- ・障害者・児の支援施設が少ないので、軽度でも入所できる施設があるとよい
- ・法律で三障害がいっしょになったのに、事業所は障害別に対応しているのはおかしい
- ・サービス等利用計画を自分で事業所に依頼するのは負担が大きいため、他市のように市と事業所が連携してほしい
- ・子どもが発達障害で不登校のため短期施設に入れたいと相談すると「市で保護してから」と言われたが、追い詰められているので早くしてほしい
- ・あかつき・ひばり園が指定管理になりケガが増えたので、法人の職員が経験を積むまでは市のベテランの職員を減らさないでほしい
- ・足に障害があって一人暮らしなので、なにかと不便である

○就労支援を充実する

- ・障害者の就労支援を充実してほしい
- ・就労したいが支援してもらえず、年金も減るなかで何の希望もない

○将来の不安を軽減する

- ・障害があるので、親が亡くなった後のことが心配である
- ・子どもに重度の障害があり、親が倒れたら地域や市が何をしてくれるか、不安である
- ・軽度の精神障害がある子どもの将来が心配である
- ・高齢の親が障害のある子どもをみている世帯があり、困っているようである

(子育て支援に関すること)

○保育所等を充実する

- ・定員オーバーのため、子どもが保育所に入れない
- ・希望するときに保育所に入れない
- ・共働きでないと生活が難しくなっているため保育所は必須であり、公的な保育所を充実してほしい
- ・子どもが小さいときに、保育所に入れてもらえずにとっても困った
- ・保育所の増設や施設の改善、保育士の増員など、子育て支援を充実する
- ・病児保育や学童保育を自主的にしている団体への補助金や、保育士、学童の指導員の待遇を改善してほしい
- ・保育所が19時までなので、残業のときには迎えが大変である
- ・子ども園を増やしてほしい

○学童保育を充実する

- ・学童保育の制度が学校によって違うので、不公平感があつた
- ・学童保育の時間が短いため仕事を辞めたが、保育所のように19時までにしてほしい

○子育て支援の施策を充実する

- ・寝屋川市は人口が減少しているため、若い世代を呼び込める施策が先決である
- ・医療費助成の拡充や待機児童の減少など、子どもを育てやすい環境があるとよい

- ・子どもを産める社会づくりとして、医療費や学費を支援してほしい
- ・高齢者の福祉や医療も必要だが、まず少子化対策として女性が働きやすい職場を増やしてほしい
- ・近隣市の方が子育て世代の支援策が多いと思うので、これからの世代を活かす政策をしてほしい
- ・寝屋川市の子育て支援は手厚いので、新しいことより、現在の取り組みを充実してほしい
- ・子どもの健診は、昼寝の時間や熱中症の予防の観点から午前中にしてもらえるとよい
- ・病院に行きたくても、子どもを近所の人に預けるのは気を遣うし、保育所などではお金がかかるので躊躇する
- ・希望する保育園に入れず、遠い園に通っており、安心して子育てと仕事ができる環境がないと2人目の出産は考えられない
- ・子どもがほしいと思うが、経済的に自然にと考えると年齢的に難しいかと思っている
- ・婚活ができる機会を企画してほしい

○子育て支援の窓口を充実する

- ・市役所とこども室が離れているのは不便で、たらい回しにされるのは困る
- ・保護者の支援が必要なケースが少なくないので、スムーズに連携できる方法があればよい
- ・小学校に入ると保育所ほど気軽に相談できないので、身近に相談できる場所があると子育てが楽しくできる

○子どもの健全育成を充実する

- ・スーパーの前でたばこを吸う子どもや飲食している若い母親などに、積極的に働きかけてほしい
- ・親の理解が得られず子ども会がなくなり、PTAにも参加してもらえず、自治会もつきあいが薄くなって子どもが荒れていく

○子どもの遊び場を充実する

- ・子どもがボールで遊べる公園を増やしてほしい
- ・子どもが遊べる場や公園、遊具が少なすぎるが、外でのびのび遊べるようにしてほしい
- ・子どもが安全に遊べる場所や遊具を増やしてほしい
- ・子どもがボールで遊べる場所がないので、楽しく活発に過ごせる場所が地域にほしい
- ・小中学生がスポーツなどをして遊べる公園をつくるべきである
- ・子どもが公園でボール遊びをすると近所の人に注意され、安心して遊べる場所が少ない
- ・ボール遊びができる場所がないので、小学校の校庭を毎日開放し、学童保育以外の子どもも遊べるようにしてほしい
- ・幼児が屋内で遊べる場が少ないので、公的なスペースがあれば行動範囲が広がる
- ・暑い時期に、小さい子どもが気軽に遊べる施設がほしい
- ・市民プールがないので市外の施設を利用しており、子どもが安全に行ける場所につくってほしい
- ・公的なプールがなく、子育てを軽視しているのではないかと思う
- ・小さい子どもを連れて行ける場所が少ないので、市立・民間の保育所が連携して、地域の子どもの向けのイベントをしてほしい

(ひきこもりの人の支援に関すること)

○ひきこもりの人への支援を充実する

- ・子どもがニートで困っている
- ・50歳代のことも引きこもりがちで、10年以上仕事に行けず、部屋はゴミの山になっている
- ・近所に引きこもりの人がいるので、外に出られるようにしてあげてほしい

(生活保護に関すること)

○生活保護を充実する

- ・灯油費は出るのに冷房費が出ないので、病人には堪える
- ・共益費が家賃に含まれないのはおかしいと思う
- ・障害と病気で生活保護を相談すると「働ける」という理由で門前払いにされたので二度と行く気にならず、福祉はあてにならないと感じた

○自立支援を充実する

- ・生活保護から自立するよう、障害者の雇用や依存症の改善などをすすめてほしい

○審査を厳しくする

- ・生活保護を不正に受給している人が多数いるので、再調査や目安箱の設置などの対策を講じて、もっと見直すべきである
- ・生活保護に頼ってパチンコなどにお金を使っている人が多いので、自立の支援をしてほしい
- ・若いのに生活保護を受けている人が目に付くので、審査を見直して、財源を子育て支援に回してほしい
- ・生活保護の医療で不正があるので、市の指定医が全員をみて判断すべきである
- ・わずかな年金で生活しており、生活保護でゆとりのある生活をしている人を見ると釈然としない

(経済的な負担に関すること)

○税金や保険料の負担を軽減する

- ・税金が高すぎる
- ・寝屋川市は水道代や住民税が他市より高い
- ・税金や物価が上がり、生活が苦しい
- ・税金や物価が上がり、クーラーも入れずに節約しているが、生きていくことが嫌になる
- ・年金世帯には税金の負担が大変だが、資金援助はないか
- ・ひとり暮らしの男性の住民税が高い
- ・国保料が高いと思う
- ・国民年金が少ないのに、介護保険料が高すぎる
- ・国保料や介護保険料が高く、年金生活者には負担なので、値下げしてほしい
- ・日雇い労働をしていて現在は年金生活だが、国保と介護保険料は低所得者のことも考えてほしい
- ・介護保険料の負担が大きく、趣味等の活動にお金をかける余裕がなくて引きこもりがちになるので、見直しが必要である
- ・固定資産税は低くなったが、国保料や介護保険料が高くて困っているので値下げしてほしい
- ・寝屋川市の保険料は他市より3～4割高いので、保険料や市民税を下げしてほしい
- ・国保料と介護保険料が増加して生活が苦しくなっているので、軽減対策を考えてほしい
- ・国保料が高くて生活できない状態で、支払うのがバカバカしい
- ・後期高齢者の保険料を検討してほしい
- ・介護サービスを利用しない人には、保険料がわずかでも戻るようにしてほしい

○年金を充実する

- ・年金が少ないので、生活が大変である
- ・年金を60歳から受け取れるようにするか、退職年齢を引き上げてほしい
- ・年金受給者のために有意義な使い方をするよう、不正受給をなくしてほしい

○介護費用の負担を軽減する

- ・ 8月から介護施設の部屋代の負担が増えたが、自宅の維持と二重の負担があるので軽減してほしい
- ・ おむつ代や水道代が大変なので、補助をしてほしい

○交通費の負担を軽減する

- ・ バス代の負担が大きい
- ・ 高齢者の交通費の補助をしてほしい
- ・ バスに乗って外出したいが年金暮らしの高齢者には負担なので、半額にしてほしい
- ・ 保健福祉センターなどが遠くて勉強などもできないので、バスを半額か無料にしてほしい
- ・ 寝屋川公園の駐車場は、市民は無料にしてほしい

○経済的な不安を軽減する

- ・ 親の介護で仕事を辞めなければならず生活が困難になった場合に、どうすればよいかわからない
- ・ 弟が無職で、両親が高齢化し、経済的な問題がある

相談やニーズ把握について

(相談に関すること)

○相談窓口等を充実する

- ・ だれでも気軽に相談でき、専門職のアドバイスがもらえる窓口を開設してほしい
- ・ 今のように窓口が分かれているとわかりにくくて無駄も多いので、ひとつにしてほしい
- ・ 就業している人が行ける時間に相談できる場所がなく、相談しても解決しない
- ・ 福祉は手続きが難しいので当事者が理解しづらいが、平日の昼間しか手続きできない
- ・ 高齢者が一人で生活するにはどうすればよいか、相談したい
- ・ 今は困ることはないが、何かあったときは、すぐに思いつく市役所で相談できるようにしてほしい

(ニーズ把握に関すること)

○ニーズ把握や見守りを充実する

- ・ ひとり暮らしの高齢者が多いので、声かけや見守りの活動を増やしてほしい
- ・ ひとり暮らしの高齢者が増えて孤立死も起きているので、民生委員を増やしてほしい
- ・ 自分から相談することが難しい高齢者もいるので、近所で見守ったり、市がアンテナを張るしくみがほしい
- ・ 一人暮らしが増えるので、近所の人や市が声かけや電話するなど、きめ細かな気遣いが必要である
- ・ ひとり暮らしの高齢者には、元気でも半年に1回程度、連絡してくれる専門職があるとありがたい
- ・ 80歳を過ぎても市の訪問を受けたことはなく、動けなくなったらどうすればよいかわからない
- ・ 近所の高齢者が気になるので、市の方で見守りをしてもらえると安心である

情報の伝達や理解について

(情報の伝達に関すること)

○情報発信を充実する

- ・ 福祉については知らなかったことが多いので、もっとアピールすべきである
- ・ 親の介護が必要になったときに、どのような制度があり、どこに相談すればよいかわからない
- ・ 困ったときに、どこに相談すべきか、どの程度助けてもらえるのかもわからない

- ・困りごとが起きたときにどこに相談すればよいかわからないので、もっと情報発信をしてほしい
- ・福祉サービスの窓口がわかりにくいので、情報を充実してほしい
- ・通帳のことなどで困っているの、相談窓口を教えてください
- ・市民は地域包括支援センター、校区福祉委員会、地域協働協議会などの活動内容を知らない、理解できるようにしてほしい
- ・市民は自分に関係しないことには興味がないので、もっとPRして訴えることが必要である
- ・親の介護が必要になったときは必要な情報を得たり市でアドバイスしてもらえたので、セーフティネットができていることを、もっと市民にPRすべきである
- ・広報を見て子育て支援は充実していると感じるが、高齢者介護の情報が少ないので、安心できるように発信してほしい
- ・計画について、広報が足りないの知らない

○わかりやすく伝える

- ・福祉の情報が市民に伝わっていないので、わかりやすくしてほしい
- ・福祉とは何かを、もっとわかりやすく広報してほしい
- ・情報提供のしかたをもっと考えてほしい
- ・人によって受け取りやすい方法が違うので、伝え方を工夫する
- ・年齢のせいかもしれないが、市などの情報がほとんど入ってこない、積極的にしてほしい
- ・高齢者は遠慮がち声が掛けにくいので、福祉に関するチラシを配布すればよい
- ・高齢者には「役所言葉」が難しすぎる
- ・自治会と協力して、地域ごとに福祉についての説明会を開催してはどうか

○「広報ねやがわ」等を充実する

- ・「広報ねやがわ」は、高齢者のページをまとめて、わかりやすく載せてほしい
- ・自治会に入っていないだけでも広報を配達してほしい
- ・地域が高齢化し、広報を自治会で配布することは難しくなっているので、郵送にしてほしい
- ・広報を月1回にして、配布は自治会ではなく、健康づくりとして有償でお願いしてはどうか
- ・「メールねやがわ」は学校によつての頻度が異なるが、ガイドラインに沿って発信しているのか
- ・「広報ねやがわ」を楽しみに読んでいる

(福祉学習に関すること)

○学校での福祉教育を充実する

- ・小中高の時代に福祉活動を体験すれば、成人したときに無関心にならないと思う
- ・困ったときのために現状を知ることが必要なので、小中学校で市の福祉のことを教えてほしい
- ・近所であいさつができない大人が多すぎるのは、家庭や学校での礼儀やコミュニケーションの問題だと思う

○多様な学習機会を充実する

- ・識者、有名人、芸能人等による福祉の講演会を、いろいろなところでしてほしい
- ・各世代から参加者を選んで、福祉についてのセミナーやワークショップを開催する
- ・今は元気で福祉は利用していないので、これから勉強する

○福祉はよくわからない

- ・特に困っておらず、福祉についてはまだよくわからない
- ・当事者になったことがないので、あまり深く考える機会がない
- ・特に興味や必要性がなければ福祉とは関係なく生きていけるので、よほど心優しい人がすることだ

と思う

つながりづくりについて

(地域の交流に関すること)

○地域の交流を充実する

- ・マンションなどでは自治会などのつながりがないので、近所づきあいが難しく、自分から出て行かないとずっと家のなかで過ごしてしまう
- ・趣味を通じて、地域で大人も子どもも気軽に交流して楽しめるとうい
- ・少子高齢化をふまえ、町会加入と町会での世帯構成の把握を義務化すべきである
- ・近所づきあいが良く、野菜をあげたり、困ったときには支えてもらえて助かっている

○当事者と地域の交流を充実する

- ・うつ病で社会的ブランクができて地域との交流も希薄になったが、そうした人が社会復帰できる制度を整えてほしい
- ・隣のひとり暮らし高齢者は自治会にも入っておらず、何かあったときのことが心配なので交流があればよいと思うが、プライバシーの問題がある
- ・施設に入居しており、ボランティアの訪問はあるが、地域交流はあまりない

○地域での居場所を充実する

- ・ひとり暮らし高齢者が身近なところで集まれる茶会や昼食会を、月1回ぐらいしてほしい
- ・地域に友だちがいない高齢者の、集いの場があるとよい
- ・町内で高齢者がだれでも行ける場をつくり、広報してほしい
- ・高齢者が食事、映画、旅行などができる会があれば友人ができるので、招待してほしい

活動の担い手や支援について

(地域福祉活動に関すること)

○活動の担い手を増やす

- ・団塊世代の元気な高齢者（特に男性）に地域活動に参加するよう、はたらきかけてほしい
- ・資格や経験のある高齢者を積極的に活用する
- ・若者に福祉を啓蒙し、自治会役員の年齢の若返りを促進する
- ・自治会役員をしながら福祉活動もしている人がおり、負担が大きいので、福祉活動に関わる年齢層を広げるべきである
- ・同じ人がいろいろな活動に関わっており、多くの人が気軽に参加できるように研修や体験の機会があるとよい
- ・全く動かず、住民ともめごとを起こしている民生委員がいるので、しっかり人選してほしい
- ・民生委員を長年している人もいるが、その人には相談したくないので、交代するようにしてほしい

○活動の情報を伝える

- ・どのような活動があるかがわからないので、わかりやすく告知してほしい
- ・寝屋川市の地域福祉活動にどのようなものがあり、どのような手続きをするのが不明である
- ・地域の民生委員や福祉委員がわからず相談もできないので、知らせてほしい
- ・地域福祉計画に基づく活動に参加したことがあるかもしれないが、どのような活動があるかがわか

らないので、広報に載せてほしい

- ・活動を紹介するための情報を、行政が持ってほしい
- ・地域に老人会があるが何をしているのかわからず、人と人の交流もない

○活動に参加しやすくする

- ・時間はいくらでもあるので、機会を捉えてボランティアを始めたい
- ・子育て世代は忙しいが、機会があれば地域の活動に参加したいという意欲はある
- ・地域の自治会に参加できず、地域交流や行事に参加できないのが残念である
- ・自治会活動は同じ人が長年していて新人が入りにくいので、若い人が福祉活動に参加できるように窓口を大きくしてほしい
- ・校区福祉委員会の活動は拘束時間が長く休みづらいので、もう少し余裕のある活動にしてほしい
- ・自治会、PTA、福祉委員などの活動は、一度関わるとずっとせざるを得なくなりそうで怖い
- ・若い世代が参加しやすい福祉の講習や単発のボランティア活動があれば参加したいが、仕事との兼ねあい条件にあうものがない
- ・市外で働いているので近所との交流はほとんどなく、学校のイベントに参加するのが精一杯である
- ・生活が安定していれば福祉に協力したいが、余裕がない
- ・転居してきて地域の活動に参加したいと思ったが、地元の小学校の出身者でないとダメだと言われたので、そうした地域の事情に目を向けてほしい

○地域での福祉活動を充実する

- ・人のために活動することが生きがいになるよう、高齢者が活躍できる場をつくってほしい
- ・子育てや介護は地域に根づいた自治会の役割を基点として、政策の立案と実施をしてほしい
- ・地域の介護の面のサポートが気になっている
- ・掃除を頼んだが一方向的に止められて困っているので、研修を受けたボランティアに来てほしい
- ・財源を有効に活かすため、ボランティアの協力を得て家具や衣類等のリサイクルを考えるとよい
- ・近所に手助けしたい人がいるが、家のなかのことには手が出せない
- ・地域でできることは自治会活動だが、自治会そのものが負担になっている
- ・老人会は健康で楽しく過ごせるように活動しているが、自治会は活動への協力や清掃などを要請しており、考え方に違いがある
- ・福祉の活動は校区福祉委員会の実績があるのに、なぜ地域協働協議会が同じことをするのか理解できない
- ・高齢者が集まって自発的に活動されており、すごいと思う
- ・一人暮らし高齢者に対して、他地域にはない活動をしてもらい、感謝している

○有償の活動をすすめる

- ・力仕事などで困ったときに、有料でもよいので利用できるサービスがほしい
- ・ちょっとした力仕事で困ることがあるので、信頼できる人がいれば少々のお金を払ってもしてほしいと思うことがある
- ・有料でもよいので、病院に付き添ってくれるボランティアがほしい
- ・市民の福祉活動への参加をポイント制にして、市民税の減免やバスカードの支給などがあるとよい

○活動への支援を充実する

- ・活動を継続するための行政のバックアップが必要である
- ・福祉活動では自治会と校区福祉委員会の負担が増えているので、行政に積極的に出してもらいたい
- ・地域協働協議会や校区福祉委員会とともに、市が主体となって福祉活動をすすめてほしい
- ・校区福祉委員の充実を図ることが大事なので、市が支援するアイデアを考え、真剣に関わるシス

テムづくりが必要である

- ・集会所をもっと活用し、身近で安く集まることができないか
- ・市民会館の使用料が高い
- ・税金を活かすように既存の福祉団体の活動を点検するとともに、新しい団体と競合しないようにしてほしい
- ・個人情報の問題で、自治会活動に支障を来している

権利擁護について

(権利擁護や差別解消に関すること)

○サービス利用者の権利を擁護する

- ・寝屋川市には介護施設の第三者機関がなく、密室になっているので、もっと目を向ける必要がある

○差別的な対応を解消する

- ・バスに車いすで乗るときの運転手の対応が悪いので、事業所をもっと指導してほしい
- ・精神障害のある子どもがおり、近所の目が冷たい

○障害への理解をすすめる

- ・発達障害を理解した人が少なく、本人や家族は苦しんでいるので、まず保健・福祉や教育の関係者が知識を得るべきである
- ・高齢者や障害者が多いなかで、症候群などで社会に認めてもらえない人が増えている
- ・一般の人は精神の病気について知らなすぎて、症状は個人個人で違うのに、同じ目で見られることが不快である

生活環境について

(バリアフリーに関すること)

○住宅のバリアを改善する

- ・腰の手術が必要だが、後遺症で車いす生活になるとエレベーターのない家では生活できない

○都市施設のバリアを改善する

- ・車いすやベビーカーで移動しやすいように、歩道や交通機関を利用しやすくしてほしい
- ・身体が不自由な人でも動きやすく災害時にも避難しやすい、人にやさしいまちづくりをしてほしい
- ・植木のはみ出しや駐車・駐輪で、車いすやベビーカーが移動しにくいところが多い
- ・駅、市役所、病院などで、車いすや酸素ボンベなどが気軽にレンタルできるとよい

○コミュニケーション支援を充実する

- ・病院や市役所などに手話ができる人がおらず、筆談してもらいにくくて困るので、指文字でもできる人がいると嬉しい

(生活の利便性に関すること)

○買い物や外出の不便を軽減する

- ・自宅が坂の上にあるため、買い物や外出に不便を感じるようになってきた
- ・スーパーや市場がなく移動販売もないので、遠方まで歩いたり交通機関で出かけている

- ・駅まで遠いので買い物が不便で、余暇などにも参加しにくい
- ・団地の4階なので、買い物で重いものを運ぶのが大変である
- ・マンションの居住階はエレベーターが止まらないので買い物で困るが、配達を頼むと300円かかる
- ・高齢者が多い地域だが、バス停が遠く買い物等に困っているの、出かけなくても買い物ができるサービスを考えてほしい
- ・商店街が衰退して高齢者等には不便になったので、市も協力して買い物同行ボランティアや移動販売などの充実を検討してほしい
- ・せめて小さなスーパーでも、近くにできるとうれしい
- ・町内の郵便ポストがなくなり、不便になった
- ・郵便局が駅前にあれば便利だと思う
- ・駅の近くにおいしい飲食店が少ない

○公共交通等を充実する

- ・妊娠中や小さい子どもがいると自転車に乗りにくいので、バスの便をよくしてほしい
- ・バス路線が廃止されて高齢者が外出に困っていると聞くので、日に数回でも運行するとよい
- ・駅やバス停が遠くて外出しづらいので、タウンくるを走らせてほしい
- ・高齢者が外出できない状況を改善するよう、タウンくるバスの路線拡充と増便をしてほしい
- ・高齢者が総合センターに行きにくいので、タウンくるの路線をつくってほしい
- ・バス停が遠いので、団地内を回るバスがあると助かる
- ・タウンくるのルートを考えて、多くの人が公共施設やスーパーなどを利用できるようにしてほしい
- ・コミュニティバスがあるが、乗り場が遠くて大変である
- ・タウンくるバスのルートを増やしてほしい
- ・くるりんバスの本数を増やしてほしい
- ・駅周辺に行かないと銀行や公共施設がないので、巡回バスがあるとありがたい
- ・駅までの巡回バスを走らせてほしい
- ・小型で狭い道にも入れるバスの運行を検討してほしい
- ・バスが1時間に1本しかなく困っているが、地下鉄谷町線が延伸される話はないのか
- ・地下鉄谷町線を延伸してほしい
- ・鉄道間の連絡が不便なのでバスを増やすか、運休時の代替輸送手段を考えてほしい
- ・介護タクシーを利用しているが、市外への買い物や食事などにも行けるとよい

(地域の環境に関すること)

○環境をよくする

- ・生活環境がよい市に発展したい
- ・駅の周辺が汚いので、美しくしたい
- ・近くの公園にカラスや猫が多くて困る
- ・野良猫の被害で困っている
- ・週末の暴走族の騒音が迷惑である
- ・夜になると駅の近くで呼び込みの人がいて、イメージや環境がよくない
- ・駅前に朝から酒を飲んでたむろする人がおり、雰囲気が悪い
- ・事業所が近隣住民に嫌がらせや迷惑行為をして困っているの、移転してほしい
- ・駅前のさわやかロードは美しく、心が和む
- ・自宅に狸や鳥がやってくる

○環境をよくする意識や行動を高める

- ・野焼きをする人や道路の糞尿に困っている

- ・側溝にタバコやゴミを捨てる歩行者が甥なので、蓋をしてほしい
- ・家の前は掃除するが、裏の溝の掃除はしない
- ・植木の落ち葉で道路の水はけが悪いので、敷地からはみ出さないように条例で呼びかけてはどうか
- ・空き家の持ち主を調査し、行政が管理の指導を徹底すべきである
- ・ゴミ置き場が汚い
- ・ゴミ当番の負担が大きい、ゴミ出しのルールを守らない人にも困る
- ・缶・ビンのゴミの前日に集める人がおり、音がうるさい
- ・道路にゴミを捨てるなど常識のない人が増えており、親のしつけに問題がある
- ・犬を飼う人が増え糞尿をまき散らして困っているので、しっかり管理するよう広報に書いてほしい
- ・近所で野良猫を殺す人がいて困っている
- ・捨て猫がいるが、餌をあげると近所の人に嫌みを言われるので困っている

○ゴミ収集などを充実する

- ・同じゴミ収集所に出す件数が多く、収集時間も遅いので困っている
- ・廃プラの収集が月曜日のため、祭日があると2週間分が溜まって困る
- ・有料でもよいので、家庭ゴミを分別しなくてもよい制度をつくってほしい
- ・一人暮らし高齢者は重いものの移動ができないので、有料でもよいので粗大ゴミ回収は部屋から運んでほしい
- ・高齢者が多い地域では私道の掃除の負担が大きいので、市も話を聞いてほしい

(安全なまちづくりに関すること)

○道路等を整備する

- ・道路が狭いところが多い
- ・駅までの道路が狭くて危険である
- ・人口の割に生活道路が狭く、歩道のないところがあって危ないので、なんとかしてほしい
- ・車道と歩道の区別のない道路が多く、特に高齢者には危ない
- ・歩行が危険なので、歩道を整備してほしい
- ・車道も歩道も狭く、接触事故が多いので、幅を広げて自転車道を確保してほしい
- ・住宅地の整備が遅れており、排水路の暗渠化ができていないので、通行の不便や冠水の心配がある
- ・歩道の整備が遅れていて危ないので、福祉の前に安全に外出できる市にしてほしい
- ・駅前の道路はきれいになったが、駐車場が少ない

○街灯を増やす

- ・暗いので街灯を増やす
- ・街灯がないため暗くて危険なので、付けてほしい
- ・暗い道があるので危険である

○自転車などのマナーを高める

- ・自転車のマナーや交通違反、歩きタバコなどがある
- ・自転車のマナーが悪いので、自動車と同じように厳罰で対処すべきである
- ・ゴミの分別や夜間の暴走、自転車通行など、ルールを守らない下品な人が多い

○治安を良くする

- ・ひったくりや犯罪が多いという汚名を返上するよう、外灯、防犯カメラの設置やパトロールをしてほしい
- ・治安が悪く、歩きタバコの人などが多くて危険なので禁止してほしい

- ・治安の悪さが気になるが、高齢者と子育て世代をつなぐ施設や活動が増えれば、地域の目が増える
- ・不要品の回収などの不審な電話がかかってくる

○水害対策を充実する

- ・数年前の水害のようなことがないように、対策を強化してほしい
- ・床上・床下浸水で大変な思いをしたので、原因や対策について相談とお願いをしたい

○災害時の避難支援を充実する

- ・マンションではエレベーターが動かないと避難できない
- ・一人暮らしで心細かったが「命のカプセル」をもらって安心でき、感謝している

健康や生きがいづくりに関すること

(健康づくりや医療に関すること)

○健康づくりへの支援を充実する

- ・高齢社会では健康寿命を伸ばすことが大切であり、市民の健康づくりにいっそう力を入れてほしい
- ・今は健康で困ることはないが、脳トレは必須である
- ・健診結果はもっと早く教えてほしい
- ・健康寿命を長く保ち、人に迷惑をかけないように頑張っていきたい

○医療機関を充実する

- ・地域に医院（特に内科）が少ない
- ・市内には安心してかかれる病院が少なく大阪市内に搬送されることも多いので、医療の整備が必要である
- ・医療機関で、人手不足による患者の放置や系列の福祉施設への囲い込みなどがある
- ・市民病院がない
- ・市民病院をつくり、安い費用で入院などができるようにしてほしい

○医療費の負担を軽減する

- ・通院の負担が大きく、困っている
- ・要介護の母が入院し、身体的な負担は減ったが、経済的な負担で困っている
- ・入院する際に個室しかないので、金銭的に苦しい
- ・障害者の医療費の1割負担で困っているの、負担をなくしてほしい
- ・子どもの医療費が月2回500円かかるが、無料にしてほしい

(生きがいづくりや就労に関すること)

○生きがいづくりへの支援を充実する

- ・福祉は弱者支援と考える人が多いが、誰もが生きがいを見いだせるようにするのが本当だと思う
- ・市民プールをつくってほしい
- ・市営のテニスコートの状態が悪く、府のコートは料金が高いので他市のコートを使わせてもらうが、引け目を感じている

○就労への支援を充実する

- ・65歳まで仕事をしたいので、広報などで紹介したり、公的な機関でアドバイスしてほしい
- ・リウマチのため仕事ができず生活保護を受けているが、できる仕事を市や府が斡旋してほしい

- ・年金で生活しているが、少しでもよいので仕事で報酬を得たい

その他

(行政に関すること)

○対応に不満がある

- ・親の介護で、長年、市役所や福祉センターに相談に行ったが、よかったという思いはない
- ・介護のために離職せざるを得ず貯金も底をついてしまったが、何の相談にものってくれなかった
- ・内部障害で車いすの補助を申請したが、寝屋川市ではできないので他市に引っ越すように言われたので、もっと「心」がわかる人を配置してほしい
- ・すぐになんとかしたいと思って相談しても、国の決まりと言われ、1か月以上かけても結局なにもしてくれない
- ・歩道が狭く段差があるので改善してほしいと市に人に頼んだでも改善されていないが、実際に車いすですべて通ってほしい
- ・市に街路樹の切除を頼んだが、2か月経ってもしていないので信用できない
- ・企画室にアイデアを出したが返事がない
- ・大気汚染を訴えても無視されて、全く役に立たない
- ・何を言っても無駄である
- ・食中毒のことで休日に保健所に電話したが、警備員は全く対応してくれなかった
- ・市役所の差し押さえが厳しいので、長い目で見て対応してほしい
- ・公園で将棋をしていたらシルバー人材センターの人に注意されたが、そのような権限があるのか

○庁舎が不便である

- ・総合センターと市役所が離れているので、不便なことが多すぎる
- ・総合センターは遠いので、市役所にも保健福祉部をつくってほしい
- ・総合センターが不便なところがあるので、市民センターをもっと使えるようにしてほしい
- ・選挙の期日前投票ができる場所が少ない
- ・駐輪場がいつもいっぱいだが、職員も置いているのではないか

○職員体制を充実する

- ・民生委員などのボランティアばかりに頼らず、公的機関の人を増やしてはどうか
- ・一部以外は向上心がない職員が多いので、採用のときにしっかりした人を選んでほしい

○行政の連携を充実する

- ・行政組織の横のつながりを充実する
- ・離れて暮らす親の介護が必要になったときに、他の市町村との連携がどうなっているかが気になる

○税金を有効に使う

- ・すべての要望を満足させることはできないので、意見を聴き、真剣に話しあって決めてほしい
- ・税金が高いが、どのように活用されているのかがわからない
- ・何もしてくれないのに、税金ばかりが高くて嫌になる
- ・高齢者がすすむなかで、必要のない道路をつくって自然を壊す現状理解できない
- ・高齢者が安心して暮らせる市にするのに使うのならば、高い税金も払う意味がある

○福祉政策を見直す

- ・財政破綻しないように、バランスを考えた福祉政策をしてほしい
- ・福祉を重視するのがよいが、生活保護者が流入していると聞くので、ボランティアで実施するなどして予算を使い過ぎないようにしてほしい
- ・寝屋川市の福祉には良いところもたくさんあるが、不正受給など詰めが甘いことが残念である
- ・住民が他市より高く生活が苦しいので、福祉にお金をかけるより税金を減らしてほしい
- ・みんなが気軽に平等に福祉を受けられるとよいと思う
- ・「右にならえ」ではなく、それぞれの地域にあう福祉を考えてほしい
- ・人間関係が希薄で関わりが難しいので、福祉は公共機関がイニシアティブを取ってすすめた方が無駄が少ない
- ・寝屋川市の福祉は見せかけだけでとっくに崩壊しており、市民税を湯水のように使っている

○行政の対応を見直す

- ・充実している地域とそうでないところがあるので、市域全体を見て行政をしてほしい
- ・食育は大切だが、中学校の給食がおいしくないなので、抜き打ちで試食してほしい
- ・商店街が近くにないので、プレミアム商品券はすべてを全店で使えるようにすべきである
- ・プレミアム商品券が公平に買えるように、引換券などを配ってほしい
- ・国会議員が好き勝手に予算や法律を決めないように、市町村や都道府県がタッグを組んで暴走を止めるべきである
- ・住みよい市になるように住民として頑張るので、行政もよろしく願います
- ・市民のために頑張してほしい
- ・頑張してほしい
- ・大変お世話になり、感謝している
- ・数年ぶりに市役所に行くと合理的な造りになっており、サービスの質も改善されたと感じた

(その他)

○将来の生活などに不安がある

- ・現在は困っていないが、年を取ったときを考えると不安である
- ・今は困っていることはないが、何年後かには出てくるかもしれない
- ・現在は健康で困っていることはないが、将来に不安を感じている
- ・今は特に困っていることはないが、年金生活でゆとりがなく、まとまった出費は躊躇する
- ・今後、困りごとが発生する可能性が大きい
- ・この先の老後のことを思うと不安で、いろいろ相談することが出てくると思う
- ・高齢になったら困ることが出てくると思うので、身体が弱っても住み続ける市であってほしい
- ・老老介護で、この先が心配である
- ・遠方に住む親が介護を受けているので福祉に興味があるが、将来の不安もある
- ・今は困ることはないが年をとると出てくると思うので、助けてくれる人が近くにいるとよい
- ・一人暮らしで認知症が出始めているが、信じられる人がいないので不安である
- ・介護が必要になったときのことが心配で、夜も眠れない
- ・一所懸命働いても経済的にゆとりがなく、介護が必要になるのが不安なので、早く死にたいと思う
- ・人に迷惑をかけながら生きていくのも辛いので、適当な時期に死にたいと思って困りものである
- ・生活が苦しく、いつまで働けるかと思うと不安でならない
- ・病気の母の愚痴や子どもの障害でノイローゼになりそうな毎日を送っており、不安である
- ・障害者本人も家族もリフレッシュしたいが思うようにできず、今後のことを考えると不安である
- ・スーパーやコンビニが遠いので、将来に不安がある
- ・バスの便が少ないので、バイクに乗れなくなると買い物や外出ができなくなることが心配である

- ・人に頼ると不平不満が起きるので、精神面を強くすることが大事である

○暮らしにくい

- ・高齢者から保険料の高さや生活保護の多さを聞き、住み続けたくないという思いが強くなった
- ・駅前などはきれいになったが街全体のアクセスが悪く、保険料も高いなど高齢者が暮らしにくい

○感謝している

- ・子どもに障害があるが、現状に感謝している
- ・ケアマネジャーに相談にのってもらい、介護の認定をしてもらった
- ・60歳で倒れて、妻に全部やってもらっている
- ・高齢の母と障害のある娘と自分の体調の悪さで日々の生活がやっとだが、負けないように楽しく過ごせるようにしている

(調査について)

○調査の効果に疑問がある

- ・こんなアンケートは無駄であり、寝屋川市は無駄な費用を使いすぎである
- ・市が福祉に力を入れているとも思えず、このアンケートで何をしているのかよくわからない
- ・アライヴづくりのような調査は役に立たないので、ビッグデータを使って計画を策定してほしい
- ・以前のアンケートにも意見を書いたが改善されていたいので、無駄である

○調査内容に問題がある

- ・この調査は内容がぼんやりしていて、何のアンケートなのか疑問である
- ・問2、問3は結婚している人限定の質問なのか
- ・若い人にはわかるかもしれないが、高齢者には質問の意味が難しいと感じた
- ・将来の不安とくらべれば、このアンケートの問題など、なんでもないことである

○調査方法を見直す

- ・80歳代で良い意見は書けないので、もっと若い人の意見が重要だと思う
- ・子どもには難しい質問ばかりなので、大人にした方がよいと思う
- ・本人が認知症のため、回答は不可能である

○現状がわからないので答えにくい

- ・アンケートも重要だが、基となる情報がどのように提供されているのかがわからない
- ・アンケートをする前に、寝屋川市の福祉の内容や実績を知りたい
- ・福祉にはあまりなじみがないので、質問内容が難しい

○調査の実施を評価する

- ・初めてこのようなアンケートが来て、市の熱意を感じて嬉しい
- ・アンケート調査に参加できて感謝している
- ・このようなアンケートも、市民が地域福祉を意識するきっかけになると感じた